

<p>01_文学部</p>	<p>1 組織的な取り組み</p> <p>1) 1 年生にはクラス担任を、2 年生以降は 17 専攻別に専攻担任を置き、問題があった場合には、学習指導主任・副主任が対処する組織的な体制を整えている。専攻ごとに定期的に会議を開催し、教員間で学生に関する情報を共有し課題に対処した。コロナ禍でのオンライン授業の実施方法、オンデマンド教材の作成方法に関して情報を共有した。</p> <p>2) 文学部全体としては、年 3 回の学習指導会議ならびに語学専任者会議を開催し、学部カリキュラムの運営上の課題点やコロナ対応について、検討や情報交換を行った。</p> <p>3) 文学部ウェブページを不断に更新・拡充し、特に 17 専攻の特色や若手研究者の研究紹介を公開することで、多様性とフォーラムを重視する文学部の特色を広報している。</p> <p>2 学習状況調査</p> <p>1) 2021 年度から授業評価アンケートを開始した。対象は、履修者 50 名以上の講義と必修語学である。春学期はグーグルフォームを活用し、回答総数 2825 件を得、内容の理解度および教授方法ともに受講学生に高く評価されていることを確認した。秋学期は CANVAS を活用して同内容のアンケートを実施し、回答総数 1217 件を得た。</p> <p>2) 毎年春と秋に各 1 回 1 年生全員の出席状況調査を実施し、出席が不良の学生と日吉主任および学習指導が面接を行った。</p> <p>3) 入学時および 1 年終了時に英語のプレイスメントテストの実施を継続した。さらに 2023 年度以降のカリキュラム改定に向けて、過去のテスト結果のより詳細な分析を実施し、ヒアリング測定のためのテスト開発に着手した（現時点では予定）。</p> <p>3 入試関連</p> <p>1) 2025 年度の一般入試の実施に向けて、学部問題検討・FD 委員会のメンバーを拡充し、入試科目等の検討を開始した。</p> <p>2) 文学部専任教員を対象に現在の入試制度に関するアンケート調査を実施し、結果は学部問題検討・FD 委員会で検討した。</p> <p>4 3つのポリシー</p> <p>通信教育課程に関して、3つのポリシーを再点検して修正のうえ、公開した。図書館・情報学専攻のカリキュラムポリシーの内容をカリキュラム変更に伴い一部修正した。</p> <p>5 講演会</p> <p>1) 2020 年度に岩波敦子常任理事（当時）と岡原社会学研究科委員長による FD 講演会を社会学研究科・文学部と共催した。</p> <p>2) 2022 年 3 月に筑波大学佐々木銀河氏による「発達障害の診断や傾向のある学生への合理的配慮と修学支援」の講演会を開催した（文学研究科、社会学研究科共催）。</p>
<p>01_文学研究科</p>	<p>各専攻・分野レベルで、全構成教員が参加するスタッフ会議を定期的で開催し、研究指導法の更新を常態的に図った。また、大学院生の研究水準を専攻・分野全体で向上させるべく、合同／共同ゼミや修論・博論発表会を開催した。コロナ禍対策として開催したオンラインでの研究発表会には、多くの課程修了者や専門研究者も参加し、大学院教育の成果に対して外部評価を受ける機会ともなった。</p> <p>社会人を対象とする図書館・情報学専攻情報資源管理分野では、外部有識者によるアドバイザーコミッティの評価委員会を、2020 年および 2021 年の 9 月に開催し、人材育成の目的に沿ったカリキュラム、教育・指導体制であるかの評価を受けた。委員会には専任教員全員が出席し、それぞれの授業内容についての報告を行った。また修了生に対して受講の効果、満足度などに関するアンケート調査を実施、その結果は外部に公開した。</p> <p>文学研究科委員が主体となる塾内学会（三田哲学会、三田史学会、慶應義塾大学藝文学会、三田図書館・情報学会）は、各々の研究大会や公開シンポジウムの企画・運営を通して、隣接専攻・分野間の研究水準を相互に確認し、指導法に関する知見を交換する機会となっている。</p> <p>2021 年に開館した慶應義塾ミュージアム・コモンズを通して研究科内での連携を図った。例えば、その開館に先立ち『人間交際』と題してアート・センター、文学部古文書室、附属研究所斯道文庫、福澤研究センター、美学美術史学専攻、民族学考古学専攻、三田メディアセンターの資料群をウェブ上に展示した。これは、領域を超えた研究指導の枠組みを構築することを念頭に置いた取り組みである。</p> <p>文学研究科 FD 委員会を 2020 年 10 月に設置し、ウェブサイトを通して多様な FD 活動の周知を図っていくこととした。まずは修士論文作成のプロセスを図化し、サイトに掲載した。高度な大学院教育を担う教員には、科研費等の競争的研究資金を積極的に獲得し、院生に調査・研究機会を与えることも求められる。そこで、同資金獲得を奨励すべく、サイトには 2005 年度以降の科研費採択課題を公開した。その後、博士論文提出に関する内規およびプロセス図を学位ごとに作成・整備し、2021 年 6 月にウェブサイトに掲載した。なお、これらは 2019 年に出された大学評価（認証評価）での指摘に対応した改善である。</p> <p>2020 年度の秋学期終了後には、コロナ禍におけるオンライン授業による学習や研究に関するアンケート調査を実施した。授業アンケートについては 2022 年度以降の継続的な実施を検討する。</p> <p>2020 年度に岩波敦子常任理事（当時）を講師とする FD 講演会を社会学研究科・文学部と共催した。</p>
<p>02_経済学部・ 経済学研究科</p>	<p>■ コロナ禍における授業運営に係る情報共有と相談対応（日吉キャンパス）</p> <p>日吉キャンパスでは、2020 年度に立ち上げたオンライン授業に関するワーキンググループの活動を継続しながら、専任・非常勤スタッフの窓口当たる学習指導担当者やカリキュラム委員を中心に、授業形態・授業運営の課題に取り組んだ。</p> <p>(1) 対面授業において新型コロナウイルス感染者や濃厚接触者が出た場合の対応</p> <p>塾内で通知されている標準の対応に加え、語学など少人数クラスにおける具体的な運用方法について、事例をもとに専任者間で検討し、非常勤講師からの相談に応じられる態勢づくりを行った。</p> <p>(2) 入国できない学生の授業参加</p> <p>日本に入国できず、対面授業を受講できない留学生等に対しては、各教員がオンライン・リアルタイム配信やオンデマンド教材の提供を行ったが、特にグループワークなど教室内の活動への参加に課題が多かったため、各教員による工夫について主として部会単位で情報交換をおこない、ノウハウの蓄積を図った。</p>

	<p>■ 2022 年度以降の授業形態・授業運営に関する検討（日吉キャンパス） 2022 年度は、キャンパス内で多くの科目が対面授業となることを見込まれたため、授業形態について学部としての基本方針を定めるとともに、科目の性質ごとに、どのような授業運営が可能か、望ましいかについて、各部会や教室を単位としつつ、幅広い議論を重ねた。コロナ禍での実践により得られたオンライン授業の効果的な活用法について、グッド・プラクティスとして集約する作業を進めており、それらを参照しながら、多様なメディアを用いた対面授業の運営につなげることを展望している。</p> <p>■ オンライン教育についてのフォーラム展開(掲示板「オンライン授業フォーラム」、三田・日吉キャンパス) 2020 年 4 月に緊急事態宣言が発出され、諸大学と同じく、慶應義塾大学でもオンラインによる授業を継続せざるをえなくなった。これを機会に、多数の教員をまきこんだオンライン教育についてのフォーラムが管理者 4 名による掲示板形式で持たれた。参加人数は、2021 年 12 月現在、三田キャンパスの所属の教員が 50 人、日吉キャンパス所属の教員が 11 人となっている。フォーラムで議論された話題は多岐に及んでおり、オンライン教育にかかわるかなり技術的な論点から、オンライン教員が及ぼす影響、学生の視聴環境についての議論などに関して、たちいった議論が展開されている。教員には欧米の大学での教育経験がある者が少なからずおり、オンライン教育で先行する大学のノウハウが伝えられている。</p> <p>■ オンライン授業についての学生に対するアンケートの実施（三田キャンパス） 2021 年 3 月、同年 7 月に三田キャンパスの学生を対象にオンライン授業についてのアンケートを実施し、その結果を公表すると共に、自由記述のなかで得られたオンライン授業に関するグッド・プラクティスの紹介を行い、より良い授業の提供のための情報を教員に提供した。</p> <p>■ 定例授業アンケートの実施（PEARL プログラム） かねてから、経済学部 PEARL 科目の担当者には、各授業について学生からの匿名による授業アンケートを行うよう求めている。学生からのコメントは PEARL 委員会で集計し、担当者に周知している。全授業ではないが、かなりの数のコメントが寄せられている。その内容は、授業のやり方、コンテンツから、教員個人の英語力にまで及び、授業の改善に役立てられている。</p>
03_法学部・法学研究科	<p>法学部・法学研究科 FD の具体的な取り組み（2020 年度・2021 年度）</p> <p>(1) 各学期末に「学生による授業評価アンケート」を実施している。2020 年度はアンケート用紙を教室で配付することができないため、keio.jp「授業支援」の「アンケート」機能を用いて実施した。担当者の所見が付された集計結果は、ウェブ上で公開された。2021 年度についても、状況に鑑み、同様の方法により実施した。</p> <p>(2) 法学部・法学研究科と法務研究科の教員間で、教育方法や内容についての緊密な連携を図る趣旨で「連絡協議会」を設置し、ほぼ 2 か月に一度の割合で開催した。</p> <p>(3) 法学部教員有志からなる「法学部授業オンライン化タスクフォース」が、オンライン授業実施のための教材の作成方法、必要なソフトウェア・機材、授業において何をいかに提供するかなどについてのノウハウをまとめた「授業オンライン化基礎資料」を作成し、法学部・法学研究科の全教員の参考に供した（なお、同資料は、日吉 ITC のウェブサイトにもアップされ、他学部の教員の参照するところとなった）。</p> <p>(4) 日吉キャンパスでは、学習指導および各部会・部門の代表者を対象に、遠隔授業に関する講習会を ITC に依頼して、2020 年 3 月に 2 度行った。また、秋学期開始前の 2020 年 9 月には、一部対面授業再開に備えて、教室からの授業配信などについて講習会を開催した。外国語担当者 8 名が参加し、学生部担当者より配信機器の説明を受けた後、感染防止に留意しながらの授業運営について意見交換を行った。</p> <p>(5) 2021 年 1 月には、日吉設置科目のオンライン授業およびハイブリッド授業を通じて得られた経験と授業のノウハウを共有するためのオンライン座談会を開催した。日吉・三田あわせて約 30 名の参加者があった。この座談会の内容は「法学部日吉キャンパスにおけるオンライン教育」と題する報告書にまとめられ、日吉専任教員および非常勤講師の参考に供した。</p> <p>(6) 2021 年 8 月には、男女平等について考える材料を提供するため、アメリカ大使館の協力のもとにオンライン映画上映会を行った。上映されたのは、Sharon Rowen 監督のドキュメンタリー映画、“Balancing the Scales”（邦題：法の世界の男女平等）である。また、これにあわせて、オンライン講演・座談会「日本における女性法律家の現状と未来」を開催した。</p>
04_商学部・商学研究科	<ul style="list-style-type: none"> ・商学部では、出版物などで教育上有益な貢献および業績を挙げた商学部教員（個人またはグループ）を対象に商学部教育メディア賞を設置し、教員が教育上の工夫をする動機づけを行っている。 ・商学研究科では、大学院生を対象とした合同演習科目を開講し、各分野・領域内で研究指導の方針や専門知識の共有を図っている。 ・授業評価アンケートを行い、次年度の改善につなげている授業科目もある。
05_医学部	<p>2019 年から体系だった FD を実施している。2020 年度からは、すべての教員に、年 4 回のうち 2 回の受講義務を課した。また、FD 入門は、在任中に 1 回は受けるべき概論 FD として毎年実施している。2020 年度から、すべてオンラインで実施し、そのアーカイブを提供することで、忙しい教員の便宜をはかっている。2020 年度の FD は、「オンライン教育の技法」「試験問題の作り方と評価」「教育の泉源：ミッションとアウトカム」「教育事例の紹介」を実施した。2021 年度の FD は、「オンライン教育お困り相談室」「コロナ禍における臨床実習～学生の声と研究の知見～」「臨床実習の評価～CC-EPOC とパフォーマンス評価～」 「2022 年度の講義・シラバス作成に向けて～Canvas の導入と対面授業の工夫～」を実施した。</p>
05_医学研究科	<p>研究科委員のほとんどが医学部教員であるため、医学部の教員 FD にて教育能力の向上を行っている。それに加え、医学研究科独自の FD として、毎月の定例研究科委員会にて、毎月委員 1 名の研究内容を発表し、お互いの研究内容を理解し、視野を広げている。</p>
06_理工学部・理工学研究科	<p>理工学部・理工学研究科における主な FD 活動は、ほとんどすべての授業科目を対象に毎学期実施している授業アンケートに基づいて実施されている。この授業アンケートは、2006・2007 年度に試行され、2008 年度より現在の形になり、インターネット上のシステムとして稼働している。学生は keio.jp にログインしてからアンケートに答えることになるが、だれがどのような回答をしたか教員側に分からないようになっている。アンケートの内容は、授業の内容や教授方法に関して 4 段階で評価する項目と授業の良い点、改善すべき点等を自由記述で回答する項目からなる。授業担当者は、質問項目を追加することも可能である。アンケートの結果に対して教員はコメントを回答し、このことで次年度の授業に向けた自己改善を図っている。アンケート結果およびコメントは学生に公開され、次年度の履修科目を決定するさいの参考資料としても活用している。</p> <p>一方、組織的取り組みとしては、アンケート結果を学科・専修・部会単位で検討して授業担当者に対してフィードバックを行う</p>

	<p>とともに、一年に一度、活動状況報告書を作成している。さらに、数名の委員によるFD委員会を学期ごとに開催し、全体スケジュール、システム改良の検討、質問項目の精査などを定期的に行っている。また、アンケート結果を解析し、理解度や有意義さなどの数値が高い授業を、日吉・矢上地区それぞれより選出し、その科目名と授業担当者を教授会にて発表することによって、高い評価を受けた授業の教授法等について学部全体で情報共有をしている。</p>
07_総合政策学部・環境情報学部／政策・メディア研究科	<p>【1】英語授業のトレーニングの実施 SFCではFDの一環として、2014年度から教員向け英語による授業運営に関するトレーニングを実施しており、これまで延べ約150名の教員が受講しており高評価を得ている。本年度は以下のトレーニングを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践トレーニング「実際に英語で行われた授業に対するアドバイス」 <p>各学期に英語で開講される授業（GIGA科目）の20～30分間を録画し、外部専門家（ベルリッツ所属の英語ネイティブ講師）がフィードバックシート（および希望者には後日面接）にてアドバイスを行う。希望者には後日オンライン面談も設定可能。</p> <p>【2】授業調査の実施 各学期1回（学期終わり）、授業調査を実施している。 全学生・全教員が自分がかかわった全ての授業を振り返り、教員と学生の相互のフィードバックと、今後の履修者への情報提供を行う。</p> <p>【3】オンライン授業各種サポート（Webページ作成、セミナー実施） 昨年度に引き続きオンライン授業のサポートを実施した。 3/19に「オンライン授業講習・相談会」を開催し、参加できなかった方のために動画を配信した。また、FAQや障害に関するニュースの配信を「SFCオンライン授業サポートページ」（scrapboxのページ）を通じて行っている。</p> <p>【4】アゴラ（シン・アゴラ）の開催 着任時期や年齢やステータスに関係なく、教職員全員が率直に意見を言い合うアゴラ（2019年12月からはシン・アゴラ）という「知の対話」の場を設け、SFCにおける研究と教育のあり方などについて、キャンパス開設前から今日まで、頻繁に開催し議論を重ねている。 2021年度に実施した以下の5回では、COVID-19の対策から教員に深く関わるカリキュラム、科研費など多岐に渡る話題が提供され、活発な議論が交わされた。 「ポピュリズムと陰謀論の最新動向」「カリキュラム評価改訂タスクフォースより中間報告」「極限サイヤンス」「目指せ科研費ゲット！そのコツ」「SFC教室の換気能力の測定結果」</p> <p>【5】SFC FACULTY AWARDの実施 教員によるSFCへの貢献のうち特に顕著な活動を讃えて互いの模範となし、SFCの持続的かつ自律的な発展を促進することを目的に、2020年より「SFC FACULTY AWARD」を開設した。第1回として「オンラインの授業や研究会で工夫を凝らし、GIGA生や研究会所属生を含め深い学びの機会を与えた」教員、「学生・教職員のメンタルヘルス維持に尽力し、キャンパスの健全な生活維持の基盤づくりを進めた」教員など22名を顕彰した。</p>
08_看護医療学部	<p>学部に所属する全教員を対象に年2回の集団でのFD研修を実施している。その活動内容については、学部ウェブサイト内にある教員用ページの中に記録している。また、各学期に授業調査を実施している。以下、FD研修と授業調査の概要である。</p> <p>【FD研修会】 集団でのFD研修を年2回実施している。1回は研究倫理に関する内容、1回は教育研究能力の向上を意図した内容で実施している。</p> <p><2021・2022年度実績> *感染症予防対策のため、オンライン・オンデマンド配信で実施 2020年4月テーマ：「研究倫理と倫理申請」 2020年10月テーマ：「2020年度秋学期に向けて」*FD委員会・ITメディア関連委員会共催 2021年4月テーマ：「研究倫理と倫理申請」 2021年12月テーマ：「看護医療職の皆さんに知っていただきたいトラウマへの配慮及び法的視点について～急性期における性暴力・性虐待被害者（児）受診時の留意点～」</p> <p>【授業調査】 各学期の終了時に授業調査を実施している。教育の改善を目指すものであり、学生からのフィードバックを受け、教員がそれに答える形で実施している。授業を振り返り、今後の改善を考える機会となっている。</p>
08_健康マネジメント研究科	<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価の実施と結果のフィードバック ・APRIN eラーニングプログラム（eAPRIN）の実施 ・FDセミナー「不正アクセス2020の現場から」（2021年3月17日、オンライン） ・シンポジウム・講演会等への参加（任意） <p>2020年8月18日シンポジウム「慶應スポーツSDGsシンポジウム2020」於・オンライン 2021年10月13日研究科企画講演会「医療リアルワールドデータ×量子コンピューティングの現在地」於・オンライン・その他（コロナ対応） 2022年3月5日シンポジウム「KEIO SPORTS SDGsシンポジウム2022」於・オンライン 2020年度については、2019年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策のため、オンライン授業準備のためのマニュアル等やノウハウの共有他、授業の質を担保するための多様な取り組みを実施した。</p>
09_薬学部・薬学研究科	<p>教員は講演会、研修会に原則全員参加となっている。また、薬学部の関連部署の職員も参加している。FDの開催記録および資料は、全教職員が閲覧できるBOXにて共有し、実施後にGoogleフォームを用いてアンケートを実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・座学に加えて教員間でのグループワークの活用（研究倫理や薬学教育のカリキュラム改定などに関するFD） ・授業アンケート。通常毎学期全科目実施（2020年度は遠隔授業に関するアンケートのみ）。全教員に結果を開示。 ・医療系三学部（医学部、看護医療学部、薬学部）での多職種連携合同教育の実施に合わせて教員同士の連携、認識の共有などを

	<p>目的に、FDを年1回実施。実施報告は、医療系三学部合同教育のウェブサイト（http://ipe.keio.ac.jp/index.html）にて公開。</p> <p>【2020年度】</p> <p>◆第1回FD研修会「授業実施に関わる著作権等の考え方」</p> <p>①実施日：2020年7月30日（木）13：00～14：00</p> <p>②内容 講演：石川さと子准教授（薬学部カリキュラム委員会副委員長/薬学教育研究センター） 「授業実施に関わる著作権等の考え方」</p> <p>③参加方法：会場で直接参加／遠隔で参加／録画を視聴 ・終了時または視聴後、ミニクイズおよびアンケートを実施し理解度を確認した。 ・FDに引き続き、希望者を対象に「遠隔授業実施に関する説明会」を実施した。</p> <p>◆第2回FD講演会「令和時代の薬剤師の役割」</p> <p>①実施日：2020年10月26日（月）13：00～14：30</p> <p>②内容 講演1：厚生労働省 医薬・生活衛生局 薬事企画官 安川 孝志 氏 「コロナ禍の状況も踏まえた令和の時代の薬剤師・薬学教育に期待すること」 講演2：医薬品医療機器総合機構 ワクチン等審査部 審査専門員 三山 由美子 氏 「令和時代の薬剤師の養成」</p> <p>③参加方法：会場で直接参加／遠隔で参加／録画を視聴 ・終了時または視聴後、アンケートを実施し理解度を確認した。</p> <p>◆大学院FD（大学院教員対象）</p> <p>①実施日：2021年1月25日（月）13：00～14：00（含む質疑応答）</p> <p>②内容 講演：国立情報学研究所 河合 将志 氏 「オープンアクセスの現状とプレプリントサーバー」</p> <p>③参加方法：遠隔で参加／録画を視聴 ・終了時または視聴後、アンケートを実施し理解度を確認した。</p> <p>【2021年度】</p> <p>◆第1回FD研修会「倫理・コミュニケーション系学習目標と自己評価としてのルーブリック評価について」</p> <p>①実施日：2021年11月29日（月）13：00～14：00</p> <p>②内容 講演：石川さと子准教授（薬学部カリキュラム委員会副委員長/薬学教育研究センター） 「倫理・コミュニケーション系学習目標と自己評価としてのルーブリック評価について」</p> <p>③参加方法：遠隔で参加／録画を視聴 ・終了時または視聴後、アンケートを実施し理解度を確認した。</p> <p>◆第2回FD研修会「関東地区調整機構より：薬局・病院22週間の実務実習における大学の役割（案）」</p> <p>①実施日：2022年2月1日（月）13:00～14:00</p> <p>②内容 講演：中村智徳教授（薬学部医療薬学・社会連携センター長/関東地区調整機構長） 「薬局・病院22週間の実務実習における大学の役割（案）」</p> <p>③参加方法：遠隔で参加／録画を視聴 ・終了時または視聴後、アンケートを実施し理解度を確認。</p> <p>◆第3回FD研修会「学生相談室芝懇談会：学生相談室との情報共有（案）」</p> <p>④実施日：2022年3月14日（月）13:00～14:00</p> <p>⑤内容 講演：学生相談室芝懇談会 「学生相談室と薬学部教員の懇談会（案）」</p> <p>⑥参加方法：遠隔で参加／録画を視聴 ・終了時または視聴後、アンケートを実施し理解度を確認。</p>
10_社会学研究科	<p>1. 2020年度</p> <p>1.1. FD講演会 岩波敦子（常任理事）・岡原正幸（研究科委員長）による対談形式 テーマ『協生する場としての慶應義塾』 コロナ禍で委員会がオンライン実施になっているので対面講演をやめ動画収録として実施。全塾に向けて配信した（大学FD委</p>

	<p>員会、文学部 FD 推進委員会、文学研究科 FD 委員会との共催)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.2. 社会学研究科 FD 委員会の設置 2020 年 10 月 1.3. 「養成すべき人材・教員に求める能力」を明確にして新年度パンフレットに掲載 1.4. 大学院生へのオンライン授業アンケートの実施、結果の公表 2020 年 11 月 1.5. オンライン授業のためのオンライン・チューターを新設 1.6. 非常勤講師へのオンライン授業助成 1.7. 留学生対応として、日本語チューター事業、委員長とのオンライン懇談会、および 2021 年度から母国語としての中国語を授業言語とする基礎科目の設置 1.8. 複数教員が共同で担当するプロジェクト科目を再設 (教員相互の授業運営の向上に向けた取り組みとして) <p>2. 2021 年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 2.1. FD 講演会 (2022 年 3 月 22 日 オンラインによる開催および録画のオンデマンド公開) 佐々木銀河 (筑波大学人間系准教授) による「発達障害の診断や傾向のある学生への合理的配慮と修学支援」に関する講演 (文学部主催, 文学研究科・社会学研究科共催) 2.2. ガイダンスの動画を作成し配信 2.3. オンライン授業のためのチューター制度を継続 2.4. 20 年度同様に留学生対応で入学試験および入学後のサポート体制の拡張 2.5. 20 年度同様にプロジェクト科目の継続 2.6. HP に社研 FD 講演会の記録を掲載 2.7. 研究科委員会にて FD 活動を協議
11_経営管理研究科	<p>経営管理研究科は、ケース・メソッドという一種のアクティブラーニングを重視している。この講義は、学生が事前に渡されているビジネスに関するケース教材を読んでもらう。クラスにおいては、講師は、学生間の議論をファシリテートしつつ、必要な学術的、実務的な知識を伝える方式である。FD にあたっては、ケース・メソッドの習熟を主要な目的としている。具体的には、下記のような取り組みをしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハーバード大学のビジネススクールが主催する Global Colloquium on Participant-Centered Learning というセミナーに経験年数の浅い教員を、毎年、派遣している (2021 年度は、新型コロナウイルスの影響で休止中)。 ・慶應ビジネススクールが実務家に向けて行う研修 (高等経営学講座) がある。この研修に出講するベテラン教員が行うケース講義を他の教員が聴講できるようにしている (2021 年 7 月)。 ・教員が、授業をお互いに見学することによって、ケースを使ったクラス運営の向上を図った (2021 年度)。 ・「ケース」教材を作成するにあたって、教員同士で批評をしあった (2021 年度)。 ・カリキュラム構成や授業内容をより良くするため、毎学期、ゼミを除くすべての授業科目においてオンラインでアンケートを実施している。
12_システムデザイン・マネジメント研究科	<p>FD 委員会を設置し、研究科が目指すコンセプトや未来像、望ましい教員・研究者人材、教育手法や教育システム・施設等のあり方を検討し、その課題を解決すべく、毎年複数回ほど専任教員全員で FD 活動を実施している。</p> <p>(1) 授業評価アンケートの実施</p> <p>セメスターごとに各授業に対する学生の理解度・満足度・改善点などを知るため、匿名回答のアンケート調査を行っている。用紙を授業で配布・回収するか、Google Form や Qualtrics 等を使ってオンラインで実施しており、各教員は結果を授業改善に活用している。</p> <p>(2) 教員間討議</p> <p>2020 年 8 月 20 日・2021 年 8 月 26 日・2022 年 3 月 2 日に FD (教員間討議) を実施し、今後 5~10 年のスパンで教育および研究に関して SDM 研究科が目指すべき方向性について、専任教員間で共有をはかり、育成したいと考える多様性のある人材像を明確にした上で、そのための教育カリキュラムおよび修士および博士研究の指導の方針について検討した。また、今後数年間にわたり退職する専任教員に代わり採用すべき専任教員の人材像について検討した。コロナ禍の下でも討議できるオンライン・ディスカッションツール (Miro) を Zoom 上で利用し、多様な意見を交換した。</p> <p>(3) シンポジウムの実施</p> <p>2020 年 2 月 4 日に、SDM 研究科の研究および教育をさらに発展させるためのシンポジウムを開催した。SDGs に関わる課題解決をテーマとしたシンポジウムとし、今後 SDM として取り組むべき課題を専任教員、学生、参加者らと共有することができた。</p> <p>(4) 授業形態の COVID-19 への対応</p> <p>2020 年 7 月 22 日に遠隔講義の手法に詳しい講師を招待し、オンライン授業を効果的に行う方法についての情報を提供してもらった。春学期に始めた Zoom によるオンライン授業を含めた様々な意見交換があり、秋学期に向けた授業準備についての情報共有ができた。これにより、従来から行っていた授業の録画ならびにその研究科内での公開に加えて、9 月に教室と Zoom を使ったハイブリッド授業システムを整備し、活用するに至っている。</p> <p>(5) 研究・教育に関連するハラスメントについて学習</p> <p>2021 年 1 月 13 日に弁護士の矢田部菜穂子先生をお招きし、研究・教育に関連するハラスメントの留意点・判例等について、専任教員全員で学習した。</p>
13_メディアデザイン研究科	<p>1 教員全体での FD 活動</p> <p>教員の peer review による教育の質向上を目的として、以下の 5 点について年 2 回実施している：</p> <ol style="list-style-type: none"> イ) 学生授業評価を参考にして、全開講科目について全教員が確認する。課題がある場合には、改善点などを議論して次回の授業に反映させる。 ロ) 全教員のチームビルディングを通したリーダーシップ、戦略立案のメンタリングを行う。 ハ) 全教員で大学の未来像 (社会のニーズ、人材育成、活動内容) を設計する。 ニ) 全教員で、次の時代に向けた教育のあり方の検討と戦略立案を行う。 ホ) 全教員で、次の時代に向けた教育方針に対応するカリキュラムの検討を行う。 <p>また、小規模なカリキュラムの変更は毎回の FD 活動で検討し、実施しているが、入学した学生の入学時のスキルセットや講義の取得状況等から、大規模なカリキュラム変更も数年毎に計画し、2008 年度の研究科の創立以来、3 回実施している。</p> <p>新任教員が開講する講義に関して、シニア教員のメンタリングを受けながら講義の目的や内容をまとめたシラバス案を作成し、教員会議や FD 会合でカリキュラム全体との整合性を確認している。必要に応じて修正を依頼し、開講の準備をする。</p> <p>2 テニユアトラック教員のための個別 FD 活動</p> <p>テニユアトラック制度に基づいて、テニユア審査までの期間、年度末に研究科委員長がテニユアトラック教員と個別面談を実施し、</p>

	<p>教育、研究、運営の貢献度を振り返り、次年度の活動方針を定めている。</p> <p>3 2020年度の活動実績 全教員によるFD活動 実施日：2020年7月31日（Zoomによるオンライン会合） 春学期授業の振り返りと改善点 オンライン授業の工夫点の共有（best practices） 実施日：2021年2月18-19日（Zoomによるオンライン会合） スタンフォード大学名誉教授によるポストパンデミック社会における大学についての講義 ポストパンデミック社会におけるメディアデザイン研究科の役割の議論 秋学期授業の振り返りと改善点 博士論文審査過程の検討と改善等</p> <p>4 2021年度の活動実績 全教員によるFD活動 実施日：2021年7月29日（Zoomによるオンライン会合） 春学期授業の振り返りと改善点 オンライン授業の工夫点の共有（best practices） カリキュラムのリデザイン 実施日：2022年2月17-18日（Zoomによるオンライン会合） 対面とオンラインによるハイブリッド形式の世界の先進的な取り組みの紹介 ハイブリッド形式の授業についての議論 ハイブリッド形式の研究発表についての議論 秋学期授業の振り返りと改善点</p>
<p>14_法務研究科</p>	<p>(1) 「FD・授業評価委員会」として3名の教員が担当している。 (2) 年に一度、「FD研修講演会」を実施している。 (3) 毎年、春学期・秋学期のいずれかに、専任教員に他の教員の授業参観を義務づけている（非常勤教員は任意）。 各教員は、keio.jpを通じてあらかじめ他の教員に授業参観を申込み（参観対象の選択は自由）、参観後に意見（参考になった点、改善を要する点など）を提出し、被参観者はこれについて意見を述べる。 参観者・被参観者の相互の意見は、匿名で集約したうえ、研究科委員会で共有し、各教員の授業改善の参考としている。 なお、2020年度は、授業がオンラインで実施されたため、授業参観を実施することができなかった。そのため、「オンライン授業について一ノウハウと課題の共有」という研修会を実施することにより代替した。2021年度は、オンラインによって授業参観を実施した。 (4) 毎学期末に、すべての授業の履修学生に「授業評価アンケート」への記入を求め、授業担当教員が閲読・関与しない形で学生部が匿名のデータとして集計し、keio.jpを通じて、授業担当教員がこれに意見（予想通りの評価、意外な評価など）を提出する。 集計された各教員のデータ、および、これに対する教員の意見は、keio.jpを通じて、教員・学生が過去に遡って閲覧することができる。 なお、学生がアンケートに記入した個別の自由意見は、担当教員のみが閲覧できることになっており、公開されていない。 (5) (4)のほか、随時、学生から匿名で自由に意見を述べる「通報窓口」が設けられている（アカハラ、パワハラ、セクハラ等々の予防）。提出された意見書は、公序良俗、社会的常識に反する内容を除いて、keio.jpで公表される。</p>
<p>15_その他（大学全体）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・協生環境推進室「協生環境推進ウィーク」 協生環境推進室と大学FD委員会が共催し、「協生環境推進ウィーク」と題して、「ワーク・ライフ・バランス」、「バリアフリー」、「ダイバーシティ」に関連する啓発活動イベントを開催した。 （期間：2020年度 2021年3月1日（月）～3月20日（土・祝）／2021年度 2022年3月3日（木）～3月17日（木））。 ・障害のある学生への合理的配慮に関する動画の公開 協生環境推進室と大学FD委員会が共同し、大学専任教員を対象として、障害のある学生への合理的配慮に関する動画を公開した。（2022年2月15日～） ・GICセンターFD動画 GICセンターと大学FD委員会が共催し、2020年度秋学期FD動画を各学部・研究科の教員向けに公開した（全6回）。2021年度はGICセンター設置科目担当教員を主な対象としたFDを11回開催した。授業運営に関する具体的なテーマに沿って議論・知識の共有を行った。 ・学生総合センター研修会 学生総合センターでは、学生にかかわる様々な問題を共通の基盤で考える機会として、研修会を毎年例年3月に開催しており、教員約70名および関連部署の職員が参加対象となっている。2021年度は、2021年3月16日（水）に、学生総合センター各担当の業務内容説明と抱える課題の共有を主題とし、内部の教職員がプレゼンターとなって研修を行った。 ・学生相談室 学生相談室では、地区ごとに学生支援における円滑な連携構築のため、日吉主任、学部・研究科学習指導担当教員、学生総合センター担当教員、学事担当職員等との懇談会を開催している。2021年度は、日吉地区（2021年5月26日）、矢上地区（2022年2月21日）・三田地区（2022年3月10日）はオンラインで開催した。また、学生相談室の全スタッフと学生部部長を対象に「ワーカー・スタッフミーティング」（学生相談に関連する研修）を行っている。2021年度は2021年9月7日にオンラインで開催した。 ・ハラスメント防止委員会 ハラスメント防止委員会では、2020年12月に学内のハラスメント対策およびハラスメントを未然に防ぐ対応として、全教職員を対象としたハラスメント防止研修資料「ハラスメントによる被害を生じさせないために」動画を委員会サイト内教職員向けページにおいて公開した。 2021年度は、2021年12月に全教職員を対象にハラスメント防止オンライン研修を実施した。